# AIエージェントがいる時代、音楽の仕事はどう変わる？

**海賊一座と花冠の妖精 —— 港の音楽会・舞台裏編**



**開場18:30 ／ 開演19:00**

一座の演奏会まで、あと数時間。今日の物語を追うのは、演奏者が舞台に立てるよう、裏で段取りを組む進行係です。

| | |
|---|---|
| **ピンク髪の進行係** | 舞台の仕込みと進行をまとめる。 |
| **銀髪の船長** | 楽団を率い、音と演奏の判断をする。 |
| **金髪の受付係** | 来場者を迎える入口と客席への案内を担う。 |
| **花冠のAI妖精** | 渡された資料を読み比べ、質問し、連絡案を作る。 |

**舞台を使う時間や担当を決めるのは一座の仲間。お知らせを送る前にも、担当者が文面を確認します。**

16:00 ／ 舞台の仕込み

# 「舞台と受付、同じ人になってる」




会場入りが15時から16時にずれ、舞台リハは予定の45分から20分に。舞台を使えるのは16:20〜16:40です。進行係は、出演者への案内・舞台進行表・受付メモを妖精に渡しました。




打楽器担当が譜面台を並べることに。受付係は、名簿と入口案内を先に整える。進行係が二人と分担を決めると、妖精はその内容を進行表と受付メモの下書きに反映しました。

16:20 ／ リハーサル

# 「20分。何を合わせておく？」




船長は客席で音量の釣り合いを聴いてもらい、次に曲の出だしと全員が入る合図を合わせる、と決めます。妖精はその順番を進行表に反映し、進行係が一座に伝えました。




**進行係が客席で音を聴き、仲間から合図の見え方を確かめる。その返事を聞いて、船長は本番の音量と入り方を決めました。**

18:30 ／ 開場

# 「お客さまを迎える準備は？」




車いすで来場する方から問い合わせがありました。受付係は会場に確認し、入口から客席まで自分で歩いて確かめます。妖精は確認できた道順をもとに、来場者への案内とスタッフ用のメモを用意しました。




受付係は文面と案内板を確認して、入口を開きます。進行係には「開場しました」とひとこと。船長は、受付の判断を待たずに楽器を整えられます。

19:00 ／ 開演

# 「舞台、お願いします」




受付係から客席の準備ができたと連絡が入り、進行係は最後に舞台を見渡します。開演の合図を出すのは、会場を見ている進行係です。




船長は客席を見てうなずき、最初の音を鳴らしました。

あとがき

# 演奏に集中できる場は、誰がどう支えている？

受付係がお客さまを迎え、進行係が舞台を整え、演奏者は目の前の音に集中する。そんな一日のなかで、妖精が引き受けたのは、段取りを考えるための下準備でした。

**妖精がしたこと**
**資料を読み比べる → 抜けや重なりを見つける → 必要なことを聞く → 答えをもとに相手別の文面を作る**

妖精は、予定どおりに開演できるよう、資料を確かめ、迷ったことを聞き、連絡案を作りました。こうして一つの仕事を段取りから進めるのが、AIエージェントです。
どんな準備を任せられたら、音楽に向き合う時間が増えそうですか？

**現場の声**

国内のフリーランス音楽家54人が答えたMESPO調査（2026年）では、52%が音楽家向けの実践例を希望しました。APRA AMCOS会員調査（2024年）では、創作支援への期待（54%）と生計への懸念（82%）がそれぞれ示されました。調査対象と質問は異なります。

**MESPOの調査結果**　　**APRA AMCOS・Goldmediaの報告書**

**まがりお みすゞ ／ デジタルクリエイティブディレクター**

**公式LINEを開く**